



県大 SDGs NEWS Vol. 07 2018 December

地域共生センター 発行

湖風祭のSDGsブースで本の帯作りワークショップを行いました。

11月17日～18日の両日、県大の秋の一大イベント「湖風祭2018」に出展し、SDGsの取り組みを紹介しました。大学図書館の協力でSDGsに関連する書籍約150冊をブースに展示し、来場者の方に興味のあるテーマの本を見てもらいながら、SDGsについて知り、考えて、それを「本の帯」の形で表現するワークショップを行いました。2日間で約25名の方が体験し、それぞれの興味に応じて趣向を凝らした個性的な「帯」が出来上がりました。

今回、SDGsに関する展示を行うに当たり、どうすれば多くの人に関心を持ってもらえるだろうと考えた末、図書館から本を借り出してブースに並べることにしました。本屋さんで本を立ち読みする感覚で、自分が興味のあるSDGsのテーマに触れてもらうという企画です。さらに、ただここで本を読んでもらうだけではなく、何か形の残るもので、それぞれの興味を表現できないかと思いついたのが「本の帯づくり」ワークショップです。

まず、図書館の司書の方から「目次読書法」について説明を受けました。これは、読書の達人と言われている松岡正剛さんが編み出した多読術のひとつで、まず本の目次をよく読んで、著者がこの本で伝えたいことは何か、本の構成がどうなっているかを整理した上で、目次から得たキーワードを頼りに本の概要を押さえていきます。少し難しそうですが、やってみるとそれなりに本の特徴を捉えたキーワードが浮かんでくるようです。そのキーワードからイメージを膨らませて、帯に表現する言葉を考え、関連するSDGsのステッカーを配置していきましました。

中には帯に切り絵のような装飾を施したり、イラストなども入れて工夫する人もいました。完成した帯を巻いた本は、他の人が選んだ本と一緒にブースの展示スペースに飾ってもらいました。

最年少は7歳の女の子2人でした。「難しい本は読めない」とのことで、世界のスラム街を写した写真中心の本を渡したところ、「こわ～いっ!!」と引かれてしまいました。ゴミの浮かぶ川で行水している人やゴミの山の家で生活している家族。日本にいと、さすがにこの状況を見ることはないでしょう。「こわい」というのは、想像をはるかに超えた酷い有様で、もし自分がこんな状況にいなけなければならないと考えた正直な感想のように思います。

「自分一人くらい、道や川にゴミ捨てても、かまへんやろ。と周りの人たちがみんながそう思ってゴミ捨てると、こんなことになるかもしれないね。」と言うと、「私は道にゴミ捨てたことない〜。」とひとりの子が言いました。もうひとりの子は、「私はまえに道にゴミ捨てたことある。でもこれからは、もう捨てん。」と言ってくれました。小さな子どもでも、しっかり課題を見つけて、これからはどうしなければならぬか、考えてもらえたようでした。もしかすると、その後すぐに約束を忘れてしまうかもしれませんが、繰り返し思い出し、考える機会があれば、こんな意識が身についてくるのではないのでしょうか？

皆さんも、SDGsを自分ゴトとして捉え、日々の暮らしの中で自分が何をすべきなのか考えてみませんか。



最初は戸惑いながら参加してくれた方も、完成した帯を本につけて満足そうでした。他の人の本と並べると、互いの興味や関心を知ることができます。そして、ここからイノベーションが起こる兆しも感じられます。

また機会をつくって図書館でワークショップができれば楽しそうですね。興味を持った人は図書館で「ワークショップ希望」と言ってみてください。

